



大 船 山



家庭学習におけるキュビナの取組から見てくこと

校長 細江 幸次

今年度4月よりキュビナの取組の意欲付けとして「キュビナがんばり賞」を設けて毎月賞状を渡しています。これは昨年度より本校で取り組んでいる「児童自ら主体的に取り組む家庭学習への転換」への一助になればという思いからの取組です。今年度はPTAの方でも活動テーマとして「自学自習～家庭での学習を習慣化しよう～」を掲げていただき、活動の重点のひとつに「キュビナによる家庭学習の取組の推進」を位置付けていただいています。PTAでこのようなご協力をいただくことは、非常にありがたいことであると感じています。それは、現代社会は予測困難な時代といわれ、目まぐるしく変転する予測困難な状況(VUCA:ブーカ)といわれているからです。以前から、この紙面でお伝えしていますが、私たちが生きる現代は絶えず自分で自分自身をアップデートしていく生活スタイルを確立していかないと、あっという間に取り残されてしまう可能性のある世の中です。その生活スタイルはそのうち自然に身についたり、備わったりするものではなく、自分自身で意識的に取り組んでいかないと身につかない生活スタイルともいえます。

学年	4月	5月	6月	7月	夏休み	8,9月
1,2年	71.8	53.1	128.1	135.8	407.4	17.0
3,4年	415.3	516.1	487.4	492.1	977.7	255.3
5年	575.1	1263.0	1895.3	741.1	1720.0	627.2
6年	172.7	422.9	576.8	679.1	862.2	162.7

私自身は低学年のうちは先生に指示されたことを家に帰って、決まった時間に決まった場所で忘れずやることのできる生活習慣づくりの時期であり、中学年以降は先生から指示される内容を徐々に減らしていき、自分の現状をよく見極め、何をやるべきか考え、自分に合ったスタイルで家庭学習に取り組んでいくことが最も望ましいと考えています。このことは右表からもわかるように、3年生以降から取組問題数が飛躍的に増えていること、4月よりがんばり賞を受けた児童のうち低学年児童は一人もいないことからわかります。

月	表彰基準	受賞数	最高取組
4月	1,000問	4人	1,918問
5月	1,500問	5人	4,631問
6月	1,500問	7人	5,332問
7月	1,000問	9人	2,269問
夏休み	1,500問	10人	4,816問
8,9月	1,500問	2人	2,754問

右表からは、1学期中、順調に取組問題数、がんばり賞受賞数が伸びてきていましたが、生活の中心が家庭に移り自由度が広がる夏休みではその取組が停滞したこと、2学期が始まって運動会の取組(演技の自主練習等)に時間が割かれたことでキュビナの取組が下がったことも読み取れます。キュビナの取組はあくまで家庭学習における一手段であり、従来の音読や漢字・計算ドリルを中心とした自主学習に取り組んでいる児童もいるので、学級・学年を比較して見るものではありません。何をやったらいいのかわからない時はとりあえずキュビナの取組が有効であると考えています。また、個々の取組の状況を知りたい場合は担任にご連絡いただければ知ることができます。